

池田文書の研究（十八）

池田文書研究会

猿渡盛雄の書簡について

猿渡盛雅の略歴

盛雅は、武蔵多摩郡府中大国神社の祠官織田氏の子として文政七年十一月十四日生れる。号は研斎。

安積良斎および伊東玄朴に入門。水戸・一橋両家会津藩ほか十六諸侯の御抱医となる。

明治四年権少侍医となり、明治八年六等侍医となる。西南戦争の際、鹿児島地方へ御使として差遣される。同年官制改革のため医員に下げられる。明治十五年宮内省御用掛となる。明治十八年官を辞し、のち日本橋区葉研堀に私立病院養生舎を設立。明治四十一年三月七日脳溢血のため麴町区六番町の自宅に死去、年八十五。谷中墓地に葬られる。

（参考文献・『明治過去帳』）

伊東盛貞の書簡について

一、伊東盛貞の略歴

盛貞は、武蔵多摩郡府中の祠官織田筑後（のち猿渡盛徳と改

める）の二男として文政九年五月十九日に生れる。字は文仲、号は貫斎。

弘化二年緒方洪庵に入門。のち長崎に遊学。嘉永六年伊東玄朴の養子となる。安政二年紀州侯に招かれ、寄合医師となり禄百五十石を受け、別家を立てる。同四年八月幕府の翻訳御用となり、下田詰となる。同五年正月幕命により米国公使ハリスを診治する。同年七月幕府奥医師となり法印に叙し瑠川院と称した。

明治三年十月十日中典医に任じ、閏十月五日天脈を拝診する。同月十日大典医に任ぜられる。明治四年八月十七日権大侍医に任ぜられる。明治七年三月佐賀県に差遣。同年十月台湾に差遣される。明治八年一月官制改革により五等侍医に任ぜられ、明治九年五月四等侍医に、明治十年十月三等侍医に進む。明治十六年十一月五日病によって辞職。

これより前、明治十一年内外科医術開業免許を受ける。明治二十六年七月二十八日逝去、年六十八。谷中墓地に葬られる。妻は伊東玄朴の長女まぢ。後妻は幕府奥医師吉田収庵二女浅。著書に『遠西方彙』『眼科新編』『日用方叢』『磯酒舎歌集』などがある。

（参考文献・伊東栄『伊東玄朴傳』大正五年、『明治過去帳』）

二、盛貞の書簡

伊東玄朴の本家を継いだ伊東方成、玄朴の養子で別家を立てた盛貞、それに玄朴の門人で盛貞の実兄と思われる猿渡盛雅の三人がほぼ同時期に侍医として勤務している。侍医局に

おける玄朴学統の影響の強さを端的に物語るものである。

盛貞の書簡はわずか七通と多くない。これは盛貞が病氣のため明治十六年という早い時期に侍医をやめたことと関連があろうか。書簡八〇一と三一二〇から盛貞が退職後の病氣治療を謙齋に依頼していたことが知れる。また書簡二二一は、当時家計不如意であったのか、借金を頼んでいたことも伝えられている。書簡二二〇は盛貞の長男でのち侍医となる盛雄のドイツ留学の際の送別会案内状である。

伊東盛雄の書簡について

伊東盛雄の略歴

盛雄は、安政元年六月二十三日伊東盛貞の長男として江戸に生れる。慶応三年六月フランスに留学し、翌四年夏帰朝。明治五年頃東京医学校に入学、明治十三年東京大学医学部を卒業。のちドイツに留学、明治十九年帰朝。のち大阪衛生試験所に勤務。明治二十一年七月二日侍医に任ぜられる。明治三十一年一月五日依頼免官。明治三十二年三月十五日没、年四十六。谷中墓地に葬られる。

(参考文献・伊東栄『伊東玄朴傳』大正五年)

伊東政敏の書簡について

伊東政敏の略歴

政敏は、弘化二年三月九日備後安那郡箱田村に生れる。細川玄碩と称した。

明治元年七月十六日大病院器械掛となり、同年十二月同病院薬局掛、明治二年四月同院少護長となる。明治四年七月大少得業生となり、病院当直医員を勤務。同年八月文部省少助教に任ぜられ、病院専務となる。明治五年五月御薬室掛。明治八年薬剤生に任ぜられる。明治十年八月二十九日医員に任ぜられる。明治二十八年六月医員を免官となり、侍医局勤務となる。明治二十九年一月二十九日没、年五十二。

(参考文献・侍医寮編『転免物故履歴書』)

池田文書 猿渡盛雅書簡一覽

書簡番号	発信年月日	発信者名	受信者名	備考
1 800	明治 年12月29日	盛雅	池田先生	歳末御礼
2 802	明治 年1月10日	盛雅	欠	御催に出兼
3 803	明治 年8月21日	盛雅	池田先生	浜町別宅小集案内

伊東盛貞書簡一覽

書簡番号	発信年月日()内推定	発信者名	受信者名	備考
1 219	明治 年3月27日	盛貞	謙齋	勤務替番
2 220	明治(13)年9月17日	盛貞	池田謙齋	倅(盛雄)洋行送別会
3 221	明治 18 年1月1日	盛貞	欠	金拾円程拝借
4 801	明治 年2月12日	盛貞	欠	診察依頼
5 804	明治 年2月7日	伊東盛貞	池田謙齋	近火見舞
6 1277	明治 年4月11日	伊東盛貞	欠	竜土町鍋嶋往診依頼
7 3120	明治 年11月17日	伊東盛貞	池田謙齋	診察依頼

伊東盛雄書簡一覽

書簡番号	発信年月日	発信者名	受信者名	備考
1 192	明治 年9月5日	伊東盛雄	池田局長	両宮殿下十日還御
2 3359	明治 年10月4日	盛雄	池田謙齋	サロモン氏セラピー翻訳

伊東政敏書簡一覽

書簡番号	発信年月日	発信者名	受信者名	備考
1 193	明治 年11月25日	伊東政敏	池田	挨拶
2 217	明治 年9月8日	伊東政敏	池田大先生	症状報告

1 明治 年十二月二十九日

八〇〇 猿渡盛雅 池田謙齋

謹肇、月迫候処益御安泰被為在奉敬賀候、尔来御無沙汰申上、何共恐縮仕候、此忝籠之内、龜末之至候へ共、歳末為御祝儀拜呈仕候、御祝納被下置候時は本懐不過之候、書余万縷拜鳳可申上候、恐々頓首

十二月廿九日

盛雅

池田先生侍史

尚々為御歳暮參上可仕候へ共、自年内御無沙汰^掛候ハ、御海忍奉願候、来陽依旧御懇命願上候、已上 (田中)

2 明治 年一月十日

八〇二 猿渡盛雅 (池田謙齋)

尊書捧拜仕候、陳は明後十二日は御催有之候ニ付參上可仕様被仰下奉鳴謝候、然ルニ同日は当番ニ相成候間乍遺憾被出兼候事ニ候、何れ拜鳳御礼可申上候、恐々頓首

一月十日

盛雅拜

(田中)

3 明治 年八月二十一日

八〇三 猿渡盛雅 池田謙齋

拜啓、時下残炎之処愈御佳祥被為在奉賀候、尔来御無音申上

候、然は今廿一日両国川茶屋花火有之候付、浜町別宅ニ小集相催候間、御差繰ニて午後三時^ト御枉車奉乞候、香川書記官^①・伊東方成も約契仕候、磐石も用意候間御戦可被下候、吳々御差繰御待申候、草々頓首

八月廿一日

盛雅

池田先生

尚々御母様ニも御子様方御同伴被下度候

(一) 香川書記官……香川敬三、宮内省大書記官は明治十^一十五^一年頃任じていた。 (田中)

1 明治 年三月二十七日

二一九 伊東盛貞 池田謙齋

高樁拜誦仕候、陳は御都合ニ付御替番之儀被仰遣承知仕候、即左之通相心得申候間左様御承知可被下候

廿八日

盛貞

廿九日

謙齋君

右之通書餘期拜眉候、已上

三月念七

盛貞拜

謙齋様

(遠藤)

2 明治 年九月十七日

二二〇 伊東盛貞 池田謙斎

謹啓

益御清適奉拝賀候、陳は私悴^{〔1〕}事兼而相願置候通り弥近日出帆之船ニ而洋行為致申度、右ニ付来ル廿日上野精養軒ニ於て粗膳差上申度懇願仕候間、御多忙中却而御迷惑トハ奉察候へ共、何卒御繰合被下、同日午後五時同軒江御枉駕奉希候、尤方成并林紀君杯も出席いたしくれられ候つもりニ付、午後二時頃より同所江囲碁盤等も設置いたし置候間、成丈御差操早目ニ御出被下緩々被成下候へハ別而難有奉存候、右得御意度如此御座候、已上

九月十七日

尚々、廿日ハ御明番ニ可在哉候へ共可相成ハ御退出より直ニ御枉駕奉願度候也

〔端裏書〕

池田先生

盛貞

〔1〕私悴洋行……盛貞の長男盛雄が明治十三年東大医学部卒業後ドイツに留学した際の洋行をさす。

〔遠藤〕

3 明治十八年一月一日

二二一 (池田謙斎) 伊東盛貞

祝賀新年

御無音、陳は拙家ニ於テ急場入用有之、実ニ御氣之毒ニ候得共一時中旬迄金拾円程拝借致度、右所望ニ付御聞憐奉願上候、不備

十八年第一月一日 盛貞拝

〔遠藤〕

4 明治 年二月十二日

八〇一 (池田謙斎) 伊東盛貞

謹啓

過日ハ高診相願候ニ付參上可仕心得ニ付御在宅之時限拜承仕り候へ共、小生所勞昨今不出来ニ而何分參上任り兼候間、御多事之申何とも恐縮之至候へ共、御枉駕被下度奉懇願候、実ハ昨夜来ハ又々発動いたし困却罷在候間、可相成ハ今日ニも御繰合被下候様奉願候也、書餘ハ期拜眉候、已上

二月十二日午前八時

〔端裏書〕

拜上

盛貞

〔遠藤〕

5 明治 年二月七日

八〇四 池田謙齋 伊東盛貞

昨晚近火之節ニハ被懸御心緒、早々御人被下御厚情奉敬謝候、右御礼迄早々已上

二月七日 盛貞 (遠藤)

6 明治 年四月十一日

一二七七 (池田謙齋) 伊東盛貞

口伸

来ル十三日龍土町鍋嶋江御見舞可被下由承知仕候ニ付、小生事先方ニ而御待受可申筈之処、虫口日ハ他ニ無廻遊行虫ノ約有之候付、罷越虫口可申候間、何卒御診察之上高案ハ御一揮病氣江御遣シ置被下度、此段奉懇願候、右御断旁如此御座候、書餘期拜芝候、草々不一

四月十一日 盛貞 (遠藤)

7 明治 年十一月十七日

三一二〇 池田謙齋 伊東盛貞

益御清適ニ被成御起居奉敬賀候、陳は私儀久く所勞罷在候処、昨今兎角不出来、殊ニ昨夜来ハ大ニ難儀仕り候間、御繁勤中願兼候へ共、今日御退出より御一診被下度、此段奉懇願候、

一 何分御差繰被下、今夕迄ニ御枉車奉待候、書餘期後便候、不

十一月十七日

(端裏書) 謙齋様 盛貞 拜乙 (遠藤)

1 明治 年九月五日

一九二 伊東盛雄 池田謙齋

両宮殿下来ル十日正午十二時五十分上野着列車ニ而還御被為在候旨被仰出候間、此段御通知申上候也

九月五日 伊東盛雄

池田局長殿 (遠藤)

2 明治 年十月四日

三三五九 伊東盛雄 池田謙齋

一書恭啓仕候、時下冷氣相成候処、益々御健勝被成御起居奉敬賀候、陳は拙訳サロモン氏テラヒー第一巻先般肅呈仕候処、尚此節全篇竣功仕り候ニ付、御閑暇之御節高閑奉願度、一部謹呈仕候、御咲留被下度奉願候、書餘其内拜趨萬縷可申上候、頓首

十月四日 盛雄拜見

池田謙齋先生玉座下 (遠藤)

1 明治 年十一月二十五日

一九三 伊東政敏 池田謙齋

奉謹啓候、追日寒威相募候得共、益被為揃御清祥奉拝賀候、然ハ先日鹿末之品御座候得共任到來奉入御覽候、御笑味被成下置候ハ、本懷之至奉存上候、先ハ御左右奉伺上度如斯御座候、謹言拜白

十一月廿五日 伊東政敏拜

池田大先生御執事御中

〔遠藤〕

2 明治 年九月八日

二一七 伊東政敏 池田謙齋

謹啓、時下追日冷氣相催候処、益被為揃御萬祥不斜奉大賀候、然ハ過日ハ御繁務之御中江昇堂御妨申上奉恐入候、愚妻容体尔後異状更ニ無御座漸次快方ニ相趣、御蔭ヲ以昨今ハ食氣も相振、不遠全癒可仕義ト相悦ひ居申候、過日来一寸容体も奉申上苦之処、漸く快方ニ付異状無之故ニ甚御不音申上候段不悪御許容被成下度奉希上候、扱此品甚如何御座候得共、愚妻より呈上仕候間、御笑納被成下候ハ、本懷之を御座候、何れ近日參上萬々可奉謝上候得共、一応右御礼まで如斯御座候、謹言

九月八日 伊東政敏九拜

池田大先生閣下

〔遠藤〕